

令和3年度 自己評価書

令和4年3月9日
真庭市立川上こども園
園長 金崎 知子 印

1. 川上こども園の教育保育目標

- 豊かな人間性をもった心身ともに健康なこどもの育成
 - ・元気いっぱい
 - ・優しさいっぱい
 - ・やる気いっぱい川上の子

2. 本年度の重点目標

- 愛着形成に着目し、一人一人に丁寧に関わることで子どもの心の育ちを支える。
- 子どもの興味・関心から始まる自発的な遊びをしっかりと捉え、子どもが主体的に活動や表現ができる環境をつくっていく。
- 保育の振り返り等を通して、子どもの発達段階や支援の仕方について職員間で共通理解をもち、専門性の向上につなげる。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	園の保育目標及び今年度の重点目標に沿った計画の立案や保育実践が、概ねできていた。	3
行事	子どもの興味関心を捉え、日頃の保育とのつながりを大切に行事への取り組みができたと思う。	3
組織・運営	職員が係や仕事を分担し協力しながら、園の運営に関わっていた。	3
学級経営	子ども一人一人を大切に受け止め、信頼関係の中で子ども主体の保育実践ができた。	3
特別支援教育	子どもの特性を理解し家庭や関係機関との連携を図りながら、支援の方法を園全体で考えていくようにした。	3
安全管理・保健指導	毎月の避難訓練実施やヒヤリハットの活用、感染防止対策の他、健康安全のための家庭への啓発を行った。	3
研修（資質向上）	リモートで園外研修に参加したり、支援を必要とする子どもについて園内研修で共通理解をもったりした。	3
情報提供・保護者・地域との連携	送迎時の伝え合い、ホワイトボードでの保育内容の発信などは日々できた。HPの活用も始めている。	3
小学校との接続・連携	年長児に関しては、昨年同様の交流をもつことができた。来年度、モニタリングも実施予定。	3
子育て支援	必要に応じて話し合いの場をもつなど、子育ての不安が少しでも軽減するよう配慮している。	3
食育の推進（給食）	育てて収穫した野菜を給食に取り入れることで、食への関心がより高まっていた。	3
食事の提供（調理）	子どもの実態に合わせた調理形態の配慮や、アレルギー対応も適切に行っていた。	3

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
その他1（保育士）	「子どもの対応や困っていることなど保育者間で気軽に話し合っている」という項目の評価が高かった。	3
その他2（調理員）	衛生面の徹底や自己の健康管理、職員間での報連相や保育士との連携も取れていた。	4

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

- ・「愛着形成に着目し、一人一人に丁寧に関わることで子どもの育ちを支える」
まずは基本的信頼感を育み、心の発達の基盤づくりをするために愛着形成を意識して、受容や寄り添う保育実践に取り組んできた。
又、子どもの姿をしっかりと捉えるため、職員間で日頃から子どものことをよく話し合うようにし、園内研修で発達段階や支援の仕方について共通理解をもつようにした。話しやすい職場の雰囲気があったことは、今回の個別評価にも表われていた。
- ・「子どもの興味・関心から始まる自発的な遊びをしっかりと捉え、子どもが主体的に活動や表現ができる環境をつくっていく。」
自由な自己表現が苦手で、自発的に取り組むことができにくい子どもが増えているという課題があり、感じたことや考えたことをのびのびと表現する喜びを味わい、意欲や主体性が育って欲しいという願いをもって、環境づくりを考えるようにした。子どもの興味・関心を捉えて活動につなげていく視点が、保育士の中で育ってきていると感じる。
- ・給食業務については、日々の衛生管理、安全管理の徹底やアレルギー児への対応等適切にできており、保育士とも連携をとりながら安心安全な給食の提供ができていた。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- ・コロナ禍の影響で、地域との交流が少なくなったことや園外研修の機会が減ったことなど低評価につながった項目もあるが、リモートでの研修やその共有、園内研修の内容、地域への発信方法など、見直すことで改善できる点はあると思う。
今年度の重点目標に対しても、今後も継続的な取り組みが必要であると考えている。保育の振り返りを大切に、園内研修の持ち方も工夫しながら、専門性の向上に努めていきたい。

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である